

### 3 5G&IoT 部 モビリティサービス

## 管理者とドライバーをクラウドでつなぎ 安心安全な社会づくりに貢献

5G&IoT 部モビリティサービス部門は、法人向け車載機等のモビリティサービスに関するサービス企画、開発、維持管理、販売推進等を行っている。本稿では、車両管理業務を総合的に支援する同部門の主力商材「doco です car」と、今後のテレマティクスサービスについて紹介する。

### クラウド型サービスで 車両管理業務の課題解決を サポート

車両の位置や経路をリアルタイムに把握する「doco です car」は、元々旧ドコモ・システムズ株式会社のオリジナル商材として展開し、一部ドコモに外販を委ねていたものだ。通信型ドライブレコーダー（以下、ドラレコ）等の車載機に搭載したAIが、ADAS<sup>\*1</sup>やDMS<sup>\*2</sup>のデータをインターネット経由でクラウドセンターに送信することにより、運送事業者の管理担当者（以下、管理者）は、ドライバーの運転挙動を画面上で把握できる（図1）。その他映像データの再生、グラフとして可

視化されたドライバーの運転診断等もクラウド上で確認できるので、管理者は遠隔地からも一目瞭然でドライバーの評価を行うことが可能だ。日々の運転状況が日報としてレポートされることにより、管理者は希望する日時の映像をピンポイントで知ることにもできる。

また、ドライバーが事故の原因ともなりえる幅寄せ・あおり運転等の被害に遭った際に、SOS映像を管理者に送って危険事態を知らせる機能も具備している。

### コンプライアンス遵守と 一元管理を実現

2021年に千葉県八街市で起きた飲酒運転による死傷事故を契機に飲



NTTコミュニケーションズ株式会社  
プラットフォームサービス本部  
5G&IoT 部 モビリティサービス部門  
部門長 武田 出氏

酒運転罰則の検討が加速し、タクシー、バス、トラック等いわゆる緑ナンバーの車を保有する運送事業者に対してのみ義務化されていたドライバーのアルコール検査の適用範囲は、一般事業者の白ナンバーの営業車にまで拡大した。改正された道路交通法により、アルコール検知器を使用して運転前後のドライバーのアルコール含有量の検査を行い、その検査データを1年間保管することが事業者の義務付けられることとなった。

こうした動きに着目し、NTT Comは長年緑ナンバー事業者向けに提供してきたアルコールチェックサービスの技術・ノウハウを活かし、「doco です car アルコールチェックサービス」をリリースした（図2）。



図1 「doco です car」

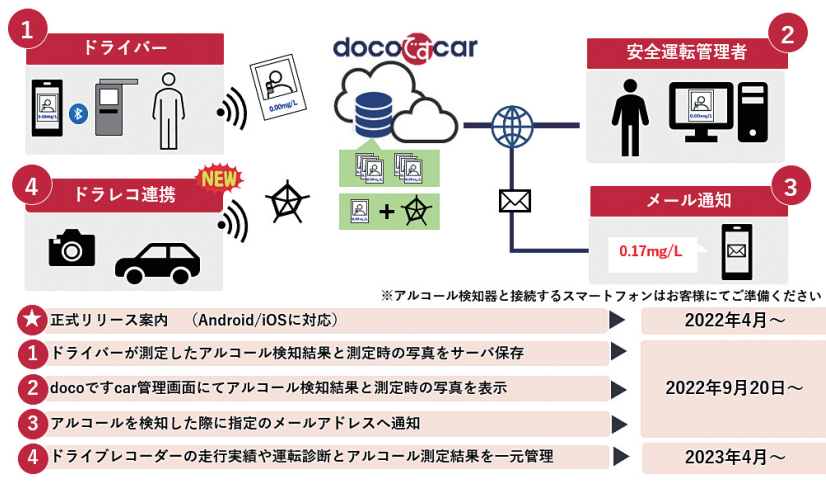


図2 「doco です car アルコールチェックサービス」

本サービスは、スマートフォンと連携したアルコール検知器で検査を行い、①結果をクラウド上に1年間自動保存する、②端末の管理画面でアルコール検知結果や測定時の写真を表示する、③アルコールを検知した際に指定のメールアドレスへ通知するといった機能が備わっており、管理者は全ドライバーを一元管理する事が可能となる。

の提供を4月より開始した。本サービスは、従来の「doco です car」が持つ位置・経路の把握や安全運転支援、車両管理機能などに改良や機能追加を施し、管理者やドライバーが使いやすいよう、UXが工夫されている。詳細説明は別の機会としたい。

### プラットフォームサービスを活用して社会に貢献

モビリティサービス部門では、ドラレコ等から刻々と送られてくる位置情報や加速度などのセンサー情報、画像・映像などの膨大なデータを同時に処理可能な、新たなプラットフォーム＝「Maxiv」の開発を進めている。Maxivには様々なモバイ

ル機器の接続を容易とする汎用IF、端末認証、FOTA、データストアならびに分析機能など、お客様やビジネスパートナーの利便性を考慮した機能が具備される。

実は、LINKEETHもこのMaxiv上で稼働するアプリケーション群で構成されており、この機能はお客様やビジネスパートナーに提供することも可能である。例えば位置情報だけ、危険運転映像だけが欲しいという要望に対してはAPIを提供し、業務アプリをカスタマイズ可能なSDKの提供も行う。また必要に応じてSI受託によるシステム連携も行う。

武田氏は次のように述べている。「LINKEETHでお客様の事故減少、ドライバーの安心安全、DXによるコスト削減、CO<sub>2</sub>削減、といった価値を提供する一方、Maxivでビジネスパートナーとの協業やデータ活用を推進することで社会に貢献していきたいと思います」(図3)。

### 管理者とドライバーがエンゲージできる次世代テレマティクスを

「doco です car」の歴史は古く、そのスタートは20年以上前に遡る。当初はドラレコが存在せず、管理者がドライバーの車両の位置や経路を確認する為のものであった。しかしブロードバンドが普及した今日、「doco です car」は管理者とドライバーをつなぎ、安心・安全な社会づくりに貢献するクラウドサービスへと進化した。

NTT Comは、スマートフォンを通じて管理者とドライバーがエンゲージできる仕組みを追加するなど、新しい機能を盛り込んだテレマティクスサービス「LINKEETH(リンクィース)」

- ※1 ADAS: Advanced Driving Assistant System  
車間距離不足、蛇行運転、急ハンドル急ブレーキといった危険運転をドライバーに警告し、安全運転を支援する機能
- ※2 DMS: Driver Monitoring System  
居眠り運転やスマートフォン等を見ながら運転する“ながら運転”を検知すると、警告音を鳴らしてドライバーに注意を促す機能

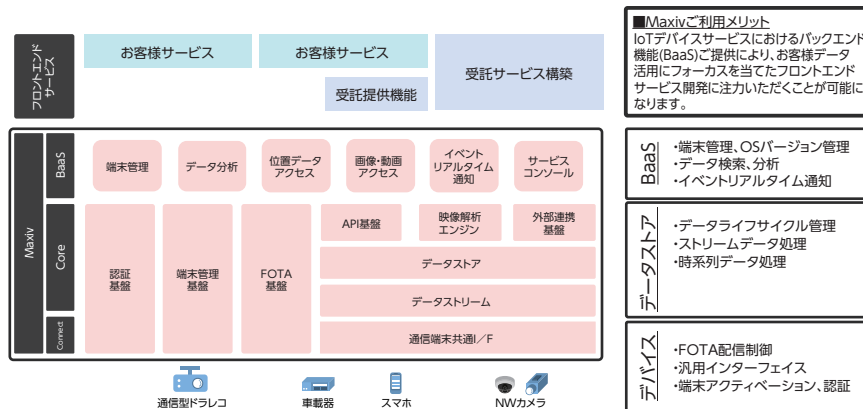


図3 次期プラットフォームサービス (Maxiv)